

酒田市の認定中心市街地活性化基本計画について

山形県酒田市商工観光部商工港湾課 土井 義孝

1. はじめに

酒田市は、山形県の北西部に位置し、最上川が日本海と出会う古くから開けた港町です。背後には広く広大な庄内平野が広がり、冬の季節風は強いものの、対馬暖流の影響を受けた温暖湿潤な気候が、わが国有数の穀倉地帯を形成しています。北は秀峰鳥海山を望み、東は出羽丘陵、西は日本海に面しています。また酒田沖 39km には本県唯一の離島である「飛島」があり、「鳥海山」とともに鳥海国定公園に指定されています。

1672年に河村瑞賢による西廻り航路が整備され、北前船の往来により、日本海沿岸の交通の要港として繁栄を遂げ、「西の堺、東の酒田」と称されました。

平成17年11月1日に酒田市、八幡町、松山町、平田町の1市3町が合併し、人口約11万8千人、総面積約602km²の「新酒田市」が誕生しました。

2. 中心市街地の区域

平成12年3月に策定した酒田市中心市街地活性化基本計画においては、商業や業務施設、公共施設などの主要な都市機能が集約された新井田川、JR羽越本線等に囲まれた区域(263.3ha)を中心市街地として設定しました。

今回の計画については、これまで展開してきた事業成果を踏まえ、さらなる活性化を図るため商店街や公共施設などの主要な都市機能に加え、酒田の歴史である湊まちとして発展してきた歴史文化区域を中心市街地(111.4ha)として設定し、「選択と集中」により事業を重点的に実施することにしました。



鳥海山を背にする酒田港



山居倉庫とケヤキ並木

3. 中心市街地の課題

中心市街地の課題を整理すると、次の3つをあげることができます。

(1) にぎわいの創出

中心市街地は、店舗、事業所数及び従業員数の減少が著しい。そのため、商店街の活性化を図る必要がある。駅前、核店舗の大型店が退店して以来、商店街が衰退しているため大型店跡地を活用したにぎわいの創出と、シティフロント整備が求められている。

郊外及び市街地内での交通機能を向上させ、利用者の利便性を図る必要がある。

(2) 観光客の誘引

中心市街地には、「さかた海鮮市場」「酒田夢の倶楽」などをはじめとして、多くの観光施設があり、多くの観光客でにぎわっている。

しかしながら、それらの施設が点在するため、回遊性を高める取り組みを行うとともに、中心商店街に誘導しにぎわいを創り出す必要がある。

(3) 居住人口の増加

全市と比較して、中心市街地の人口と世帯数の減少及び少子高齢化が進んでいるため、これに対応した取り組みが求められている。

活力ある地域コミュニティを維持するためには、多世代がバランスよく暮らす必要がある。

4. 中心市街地活性化の基本方針と数値目標

基本理念

湊まちルネッサンス（再興）

—湊のにぎわいと交流のあるまちづくり—

中心市街地には、湊まち文化を感じる歴史的建造物や街並みが多く残っており、街なか居住により地域資源を再発見するとともに、来街者ののにぎわいと交流のあるまちづくりを進め、「湊まちルネッサンス（再興）」を目指す。

基本方針Ⅰ

にぎわいあふれる商業のまち

活性化の目標 中心商店街の活性化

評価指標 歩行者・自転車通行量（平日）

現況値（H 20 年）：2,276 人 / 日



目標値（H 25 年）：3,100 人 / 日

基本方針Ⅱ

訪ねて楽しい観光のまち

活性化の目標 街なか観光の推進

評価指標 観光施設入込数

現況値（H 19 年）：1,549,077 人



目標値（H 25 年）：1,600,000 人

基本方針Ⅲ

暮らしやすく 多様な世代が住むまち

活性化の目標 街なか居住の促進

評価指標 居住人口

現況値（H 20 年）：2,954 人



目標値（H 25 年）：2,960 人

5. 中心市街地活性化のための主な事業

①酒田駅前地区優良建築物等整備事業

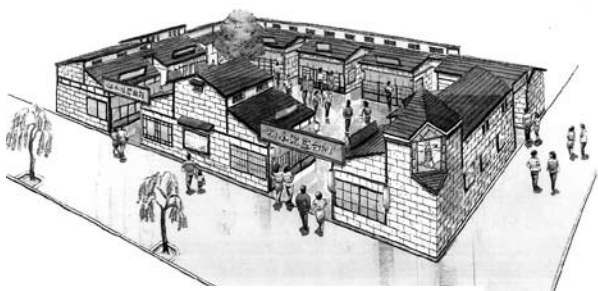
酒田駅前ジャスコ跡地にホテル及び商業施設等を整備するもの。

②中町ふれあいサロン整備事業

旧北都銀行の敷地に飲食や映画鑑賞などができる多目的ホールを整備するもの。

③酒田料亭横丁整備事業

商店街の空き地を活用し、老舗料亭の味を堪能できる料亭横丁を整備するもの。



酒田料亭横丁整備イメージ

④新産業会館整備事業

老朽化が進んだ産業会館を、現行の耐震基準に適合するように改築し、商工会議所・金融機関・コンベンション・飲食機能などを有する交流施設として整備するもの。

⑤海鮮モール整備事業

海鮮市場と隣接して鮮魚を中心としたテナントミックス店舗を整備し、既存の「さかた海鮮市場」とモール化するもの。

⑥湊マンション整備事業

酒田市船場町駐車場に、中心市街地共同住宅供給事業の補助を受け、福祉施設を併設した子育て世代、高齢者向けの安価で優良な共同住宅を整備するもの。



さかた海鮮市場

6. おわりに

本市は、平成21年3月に内閣総理大臣の認定を受けました。今後はこの基本計画に基づき、中心市街地活性化協議会を中心に、市民の皆さん、民間の事業主体、行政が連携して中心市街地の活性化に向けて取り組んでいきます。

酒田は港町であることの利点を最大限に活用して、人が集まり、にぎわいと交流が盛んな活気あふれる中心市街地を目指していきます。

(どい よしたか)